

第5章

アセスメント



支援を考える上ではアセスメントから始める必要があります。ここでは、様々なアセスメントの考え方について紹介します。

アセスメント

アセスメントとは

意味	日本語では、「評価」や「実態把握」と訳します。支援の情報にするために、本人や周囲の情報を調べることです。
必要性	発達障害のある人の特性は、成育歴や生活環境により一人ひとり違います。そのため、特性を含めた本人の状態をアセスメントする必要があります。アセスメントは1回で終わりではなく、必要に応じて準備をしてから再度実施をします。
目的	本人が今以上に質の高い生活をするために必要な情報を、様々な視点や方法で得ることです。
種類	フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントがあります。

種類	フォーマル（標準化）アセスメント	インフォーマル（非標準化）アセスメント
定義	<ul style="list-style-type: none"> ● 検査具や検査用紙を使う。 ● 実施や評価の方法が、定められて（標準化されて）いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 検査具が無い場合もある。 ● 支援場面での観察や聞きとりを行い情報を集める場合もある。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 発達に関する知識や心理検査の知識を持ち、トレーニングを受けた者（資格保有者）が検査者を担う。 ⇒ 静かな環境且つ1対1で行う場合が多いため、被検査者の本来の情報処理の特性を確認し易くなる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 何を見るのか、そのために何を準備すべきか等自由度が高いため、支援者はポイントを絞り、プランを立てて事前準備をする必要がある。 ⇒ フォーマルアセスメントと比較すると、継続的な実施が可能。 ● アセスメントは1回で終わらせず、必要に応じて再度実施する。

フォーマルアセスメントの活用①

フォーマルアセスメントとは

標準化された検査具や検査用紙を使用して、評価と報告を行います。個人の発達レベルの確認や発達障害児・者に関わる主なフォーマルアセスメントは以下のものがあります。

種類	検査名
知能検査・ 発達検査	ウェクスラー式知能検査 田中ビネー知能検査 K-ABC II 鈴木ビネー知能検査 新版K式発達検査
生活能力・ 問題行動	Vineland- II 適応行動尺度 新版S-M社会生活能力検査
自閉症スペク トラム障害の 傾向・症状	M-CHAT（乳幼児期自閉症チェックリスト修正版） PARS-TR（親面接式自閉スペクトラム症評定尺度） CARS 2 日本語版（小児自閉症評定尺度第2版） ADI-R（Autism Diagnostic Interview-Revised） ADOS-2(Autism Diagnostic Observation Schedule Second Edition) PEP(自閉症児・発達障害児教育診断検査)
ADHD・LDの 傾向・症状	ADHD-RS（診断・対応のためのADHD評価スケール） Conners 3（コナース3 ADHD評価スケール 日本語版） CAADID（CADID 成人ADHD診断面接ツール 日本語版） CAARS（CAARS 成人ADHD評価尺度 日本語版） LDI-R（LD判断のための調査票）
運動機能	DCDQ（Developmental Disorder Coordination Questionnaire） M-ABC2（Movement Assessment Battery for Children）
その他	SP感覚プロファイル DN-CAS（Das-Naglieri Cognitive Assessment System） WAVES（Wide-range Assessment of Vision-related Essential Skills）

フォーマルアセスメントの活用②

フォーマルアセスメントの活用

- 対象者の強みを活かし、弱いところに負担がかからないように支援するための情報として活用します。
- 適切な活用のために、フォーマルアセスメントのメリットと、支援者の気をつけたい心得があります。

フォーマルアセスメントのメリットと心得ておくこと

メリット

- 標準化されており（信頼性と妥当性の基準が満たされている）、測定された結果が安定している。
- 支援者の「多分〇〇だろう」という予測ではなく、正式な評価で計算され、結果が数値で出る。
⇒ 客観的な情報が得られる。
- 集団場面とは異なる、対象者の情報処理特性が確認できる。
- 個人の得意と不得意の比較ができる。

心得ておくこと

- 検査は万能ではない（検査結果が全てではない）ことを意識する。
- 最適な検査を選ぶ。
- 支援のために行う。 ※検査結果を根拠に支援をする。
⇒ 検査を提案する時は、メリットを対象者や家族に説明できるように準備して提案することが望ましい。
⇒ 検査結果は、苦手なことを確認するだけでなく、本人が求めている支援や必要な環境等の配慮を、支援者がどのように計画するかの情報とする。

インフォーマルアセスメントの活用

インフォーマルアセスメントの方法の例

- 面接での言動の記録や観察
- 行動観察（集団場面での学習や遊びの様子、1対1場面で対象者の観察したい場面の様子等）
- 学業場面（成績、宿題や板書の様子や量、掲示物）
- 家族関係や生活環境等の情報収集 等々

インフォーマルアセスメントのメリットと心得ておくこと

メリット

- 自然な場面の観察が可能（日頃慣れている場所で実施する場合、本人の緊張が高まりにくい）。
- 本人の現在持っている能力やスキルだけでなく、興味や関心（強化的に機能する対象）を把握できる。
- 実施者に資格や訓練が必要でないことが多い。

心得ておくこと

- 実施上の自由度が高いため、事前準備とプランニング力（何の力をどのように見たいのか、それをどう評価するのか等）が実施者側に必要とされる。
⇒事前計画を怠ると起こりやすい課題
例）主観的（過大評価や過小評価）になりやすい。
実施者以外の支援者との共通認識が持ちにくい。
- 本人の自立に向けて、有効な情報を得るためのインフォーマルアセスメントにするために、複数の支援者で意見交換をしながら準備をすることが望ましい。

インフォーマルアセスメントの紹介

道具を使ったアセスメント方法や行動観察においても、基準や工程を決めた中で、どのように行うのか、目的を持ったアセスメントが重要です。



理解のアセスメント



ワークサンプル幕張版



掃除場面のアセスメント



個別の場面・集団の場面